

## 義務教育学校（小中一貫教育）の推進について

## 1 児童生徒数の減少

平成18年度の市発足時から本年度までの14年間で児童生徒数が1,562名減っている。

平成18年度	児童数 3,050名	生徒数 1,755名	合計 4,805名
	↓	↓	↓
	<b>937名減</b>	<b>625名減</b>	<b>1,562名減</b>
平成31年度	児童数 2,113名	生徒数 1,130名	合計 3,243名

## 2 今後の南島原市の学校教育について

令和7年度までの本市児童生徒数を子どもの出生数で予測し、旧町別にまとめたのが以下の表である。

旧町 ブロック	小学生			中学生			全児童生徒数		
	H31	増減	R7	H31	増減	R7	H31	増減	R7
加津佐町	211	-53	158	126	-28	98	337	-81	256
口之津町	180	-39	141	102	-21	81	282	-60	222
南有馬町	205	-60	145	87	6	93	292	-54	238
北有馬町	148	-39	109	86	-11	75	234	-50	184
西有家町	356	-64	292	208	-38	170	564	-102	462
有家町	392	-18	374	211	0	211	603	-18	585
布津町	210	-11	199	114	-11	103	324	-22	302
深江町	411	-46	365	196	13	209	607	-33	574
計	2,113	-330	1,783	1,130	-90	1,040	3,243	-420	2,823

このような中、南島原市教育委員会では、平成20年度から検討をはじめた南島原市小学校適正規模・適正配置事業で小学校の統廃合を進めてきた。令和2年度末の有家地区の統廃合をもって終了となるが、「南島原市教育振興基本計画」に則った児童生徒の育成のためには、南島原市の学校教育の在り方について検討していく必要がある。

## 3 南島原市の小中一貫教育について

本市が目指す小中一貫教育は、南島原市教育振興基本計画に基づきながらも、児童生徒一人一人に「確かな学力を育む教育」、「豊かな心と志を育む教育」、「健やかな体を育む教育」の充実を図るとともに、いじめや不適応等を解消し、一層充実した学校生活を送ることに寄与することを目指すものである。今までの小学校6年間、中学校3年間のそれぞれの校種の独自の指導計画から、小中学校9年間の一貫した指導方針・指導計画に基づき、系統的・継続的できめ細やかな指導を展開する。

### 「確かな学力を育む教育」

- ・ 9年間を見通した系統的な学習指導の充実
- ・ 小学校高学年の一部教科担任制の導入
- ・ ICTの効果的な活用等

### 「豊かな心と志を育む教育」

- ・ 次代を担うグローバル人材の育成
- ・ 異年齢交流によるよりよい人間関係の構築
- ・ キャリア教育の充実
- ・ 人権教育の充実
- ・ ふるさと教育の推進

### 「健やかな体を育む教育」

- ・ 学校体育の充実
- ・ 運動部活動の推進



なお、令和2年度から順次全面実施となる新学習指導要領を踏まえ、小中学校の全教職員で授業改善及びカリキュラム・マネジメントに取り組み、その成果を次の学年、あるいは小学校から中学校へ確実に引き継いでいく。そして、児童生徒の9年間の「学び」を継続させていくことで、より効果的に身に付けさせたい「資質・能力」を育成していくことができるのではないかと考える。

## 4 基本的な進め方

平成31年4月から小中一貫教育を推進するための検討・準備をはじめ、実施に必要な財政面、環境面を整える。令和2年度には、新学習指導要領の全面実施やコミュニティ・スクールの導入についても調査研究を行いながら、南島原市小中一貫教育検討委員会を設置し、小中一貫教育の検討を進める。

### \*「コミュニティ・スクール」

学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める仕組み

# 9年間の学びをつなぐ

南島原市教育委員会では、小中一貫教育の導入（義務教育学校開設）を検討しています。

※義務教育学校…小学校から中学校までの9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校



## 義務教育学校とは

### ●設 置

- ・国公立私立いずれも設置可能
- ・入学者選抜は行わない。
- ※義務教育学校の設置数（全国）  
→82校（平成30年4月現在）

### ●目 的

- ・義務教育学校は、心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことを目的とする。（学校教育法第49条の2）

### ●修業年限

- ・9年間（前期課程6年間、後期課程3年間）
- ※柔軟な学年段階の区切り設定可能  
（例）「4-3-2」「5-4」

### ●教育課程

- ・前期課程  
小学校学習指導要領準用
- ・後期課程  
中学校学習指導要領準用
- ※設置者の判断で教育課程の特例を設けることが可能  
（例）前期課程における英語教育、ふるさと学習

### ●施 設

- ・施設一体型…校舎の全部が一体的に配置
- ・施設分離型…複数の校舎が分かれて配置
- ・施設隣接型…複数の校舎が隣接して配置

## 義務教育学校の効果

### ●中学校進学に伴う生徒の負担軽減

- ・小学校教育から中学校教育への緩やかな移行による生徒の負担軽減

### ●特色ある学校づくり

- ・グローバル教育や南島原市の歴史や文化等を生かした教育等、特色ある学校づくり
- ・系統性や連続性を考慮した独自の教科や指導内容の工夫

### ●学力の向上

- ・9年間の学びに連続性（系統性）を持たせることによる学力向上

### ●諸問題の防止

- ・学校を取り巻く環境の急激な変化に伴う児童生徒の問題行動（いじめ、暴力行為等）や不適応行動（中1ギャップ、不登校等）などの未然防止

## 義務教育学校の課題

### ■6年生のリーダー性

小学校では最高学年として全体をリードするが、9年間連続する義務教育学校では6年生のリーダー性が育ちにくい。

### ■5年生におけるギャップ

義務教育学校では学年段階の区切りを「4-3-2」とする場合は、「中1ギャップ」まではないが、「ギャップが生じた」という学校もある。

### ■小中の学校における文化違い

これまで別々にやってきた小・中の教職員に意識の違いが生じてしまうという学校もある。

### ■施設分離型では効果が低い

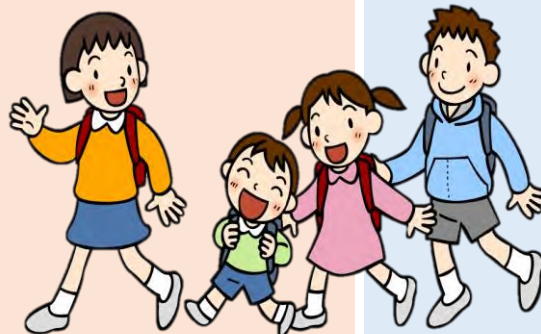
同じ校舎で教育活動を行うほうがさまざまな効果が高い。

### ■乗り入れ授業の制限

教員が所有する免許状によって乗り入れ授業が実施できる教科が制限されるということがある。

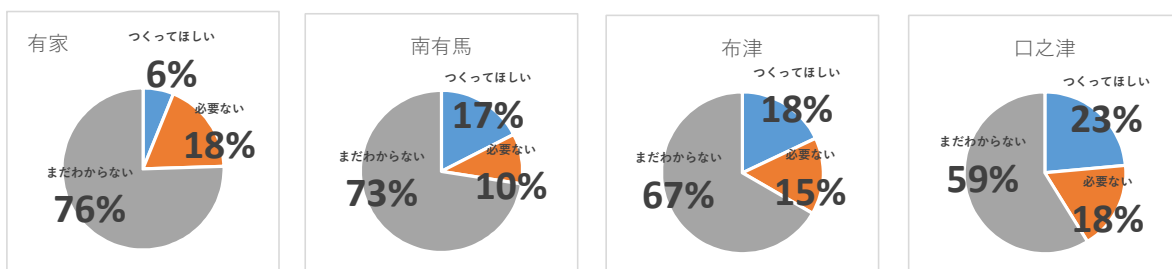
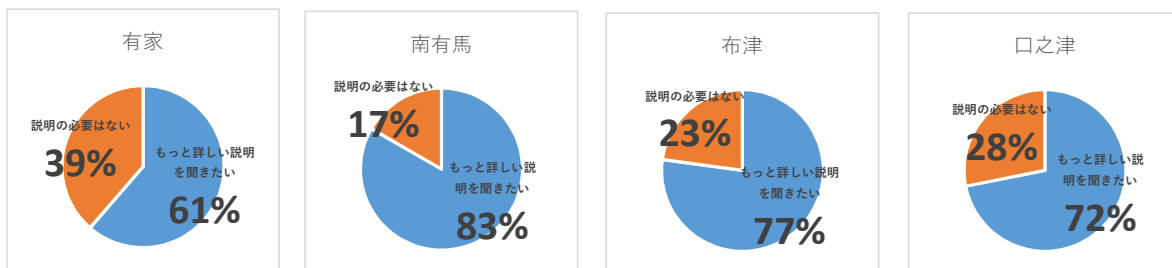
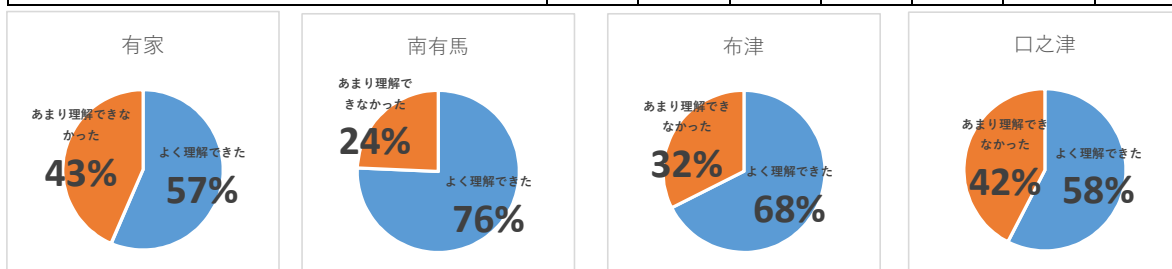
### ■転出入

転校する場合、学習内容や進度が違う場合がある。



## 29・30 小中一貫教育説明会アンケート集計結果

「小中一貫教育の説明」の理解	割合				人数			
	有家	南有馬	布津	口之津	有家	南有馬	布津	口之津
よく理解できた	57	76	68	58	26	28	25	19
あまり理解できなかった	43	24	32	42	20	9	12	14
「小中一貫教育説明会」への要望								
もっと詳しい説明を聞きたい	有家	南有馬	布津	口之津	有家	南有馬	布津	口之津
もっと詳しい説明を聞きたい	61	83	77	72	27	30	27	23
説明の必要はない	39	17	23	28	17	6	8	9
小中一貫教育校の導入								
つくってほしい	有家	南有馬	布津	口之津	有家	南有馬	布津	口之津
つくってほしい	6	18	18	24	3	7	7	8
必要ない	18	10	15	18	9	4	6	6
まだわからない	76	73	67	59	37	29	26	20



## 【H30 説明会アンケートから】

- ・これから先の南島原市の状況を考えた時に、義務教育学校の設置は有意義である。
- ・判断するには、まだ情報が少ないので、今後も研究と情報提供が必要である。
- ・少子化が進むなかでは、一つの改善方法である。しかし、9年間という長い時間、同じ場で教育を受けることが今からの時代に対応できる人間が育つのだろうか。
- ・教職員の働き方改革を進める必要がある中で、多忙感を生む小中一貫教育は難しいのではないかと。小中一貫教育の検討の前にコミュニティスクールの検討が必要ではないかと。
- ・カリキュラムが異なるのであれば、転校時のギャップをどうするのか。

## 県内の義務教育学校等

## 【公立】

## ○佐世保市立黒島小中学校（平成30年度開校）

住 所：佐世保市黒島町  
学 級 数： 5（平成30年度）  
児童生徒数：16（平成30年度）

## ○佐世保市立浅子小中学校（平成30年度開校）

住 所：佐世保市黒島町  
学 級 数： 6（平成30年度）  
児童生徒数：33（平成30年度）

## 【私立】

## ○九州文化学園小学校・九州文化学園中学校（平成31年度開校）

住 所：佐世保市花園町  
学 級 数： 2  
児童生徒数：小学校1年 19名（40名募集）  
                  中学校1年 18名（40名募集）  
主 な 特 色：小学校1年生からの英語教育  
                  I T、茶道を中心とした日本文化教育  
                  土曜授業の実施

## ○ながさき東そのぎこどもの村小学校（平成31年度開校）

住 所：東彼杵郡東彼杵町  
学 級 数： 6  
児 童 数：34名（各学年12名募集）  
主 な 特 色：主体性や自由を重んじる教育方針  
                  農業やものづくり、演劇などの体験学習